指示する語句と接続する語句(1)

指示する語句

「これ・それ・あれ・どれ」などのように、物事を指し示す言葉を、**指示する語句（こそあど言葉）**という。

	近称	中称	遠称	不定称
事物	これ	それ	あれ	どれ
場所	ここ	そこ	あそこ	どこ
方向	こちら	そちら	あちら	どちら
状態	こんな こう	そんな そう	あんな ああ	どんな どう
指定	この	その	あの	どの

このほか、「前者・後者、以上・以下、上記・下記」なども、指示する語句の働きをすることがある。

（例）今日は生徒会と文化祭の準備があります。前者は十二時から、後者は十五時からです。

・**現場指示**…現実にあるものを指し示す。

「これ」は話し手の側に近いもの、「それ」は聞き手の側に近いもの、「あれ」は話し手と聞き手の双方から遠いものを指す。

（例）机の上に本があるよね。それ取ってくれないかな。

・**文脈指示**…文章や会話の、ある内容を指し示す。

指し示す内容は、文の一部であったり、文全体であったりする。

（例）日本の米の生産量は多いが、中国のそれには及ばない。

↓ それ＝米の生産量

夏季大会で優勝する。それが私の目標です。

↓ それ＝夏季大会で優勝すること

指示する語句は、前にある内容を指し示すことが多いが、後に続く内容を指し示すこともある。指し示す内容を確かめるには、指示している箇所を当てはめてみるとよい。

（例）日本の米の生産量は多いが、中国のそれ（＝米の生産量）には及ばない。

確認テスト

(1) 次の文の（　）に当てはまる語句として適当なものを選びなさい。

（　）は先生からいただいた本です。

ア これ　**イ** ここ　**ウ** こんな　**エ** この　〔　　〕

(2) 次の文の――線部が指す内容を選びなさい。

三時に公園に行くと、<u>そこ</u>では祭りの準備が行われていた。

ア 三時　**イ** 公園　**ウ** 行く　**エ** 祭り　〔　　〕

(3) 次の文の――線部が指す内容を選びなさい。

彼(かれ)は国語と英語が得意で、特に<u>後者</u>の成績は群を抜(ぬ)いている。

ア 彼　**イ** 国語　**ウ** 英語　**エ** 成績　〔　　〕

(4) 次の文の――線部の働きを選びなさい。

フランスの哲学者(てつがくしゃ)であるパスカルは<u>こう</u>言った。「人間は考える葦(あし)である。」

ア パスカルという前の語句を指している。
イ パスカルが哲学者であるという前の内容を指している。
ウ 葦という後の語句を指している。
エ 「人間は考える葦である。」という後の内容を指している。

〔　　〕

(5) 次の文の――線部が指す内容を選びなさい。

日本は森林の面積の割合が高く、<u>これ</u>は日本に山地が多いことと関連している。

ア 日本
イ 森林の面積
ウ 日本は森林の面積の割合が高いこと
エ 日本に山地が多いこと

〔　　〕